

合唱は一人ではできない。みんなが一つになったときが合唱。声と心が一つになったとき、素晴らしいハーモニーが生まれる。



協働・登米スタイル

地域、NPO、企業、民間団体、行政が一体となり「これからの公共」をコーディネートしていく
まちの未来を創るのは、登米市に関わる全ての人たち

誰のための協働なのか。今一度、一人一人に自分事として考えてほしい。

急激に加速する少子高齢化や人口減少などは、行政が直面する喫緊の課題。しかし、人口は合併以降、1万人以上減少。行政単独の取り組みでは、解決できないレベルにまで及んでいる。「これからの公共」は、行政の担ってきた分野にも市民の活力を生かして

ていかなければ、発展していくことができない。

つまり、「協働のまちづくり」なくしては、登米市の発展は望めないということだ。これまで以上に市民の意志を尊重し、多くの参加を促していく。その知恵と力を、新しいまちづくりに生かしていく協働システムの構築が重要だ。

システム構築といっても、新しいものを作り出すのではない。登米市には、多くの地域資源がある。市民の知恵と活力、民間が持つノウハウなどを服に見立て、条件、状況に合わせて組み合わせる。協働というファクションを、地域、NPO法人、企業、民間団体、行政、登米市に関わる全ての人たちでコーディネートしていく。既成概念に捉われないこと、良いものは取り入れ、うまくない点は、随時修正していく。登米でしかない協働「協働・登米スタイル」だ。

「協働・登米スタイル」の実現は、誰のためでもなく、市民一人一人の幸せのため。さあ、みんなでコーディネートしていこう。

「特集」登米市の「協働改革」
終わり

情報共有が必須であり肝心 みんなで汗をかくのが近道

当プラザは、コミュニティ組織やNPO法人、市民活動団体などの活動支援、各組織の情報受発信、団体間のマッチングなど、公益活動の中間支援をしています。

各地域で地域づくりが展開され、早いところ来5年目を迎えます。順調な地域、試行錯誤の地域などさまざまです。プラザの来館者から「地域づくりとは何か」「うちのコミュニティ組織の取り組みを教えてください」などの質問がありました。行政もコミュニティも、プラザも、市民への情

報発信が不足していると反省しています。新たな取り組みを進めるとき、協力を得るためには、情報共有が必須であり肝心だと痛感しました。

地域づくりを成功させるためには、その中心となるコミュニティ組織役員と事務局職員だけではなく「全ての地域住民で考え、汗をかく」仕組みが求められています。そこには、有益な情報や知識を持つ、市職員の参画も欠かせません。より良い地域づくりに向けて、私たちが一緒に汗をかいていきます。



とめ市民活動プラザ
マネージャー 佐藤幸広さん

支援団体、専門家に聴く

私たちに必要なこと

のがあります。他の自治体ではあまり見かけません。制度があるうちに有効活用し、地域が自発的に事業を展開するべきです。市側も、より補助金の使い道を広げるなど、弾力的な仕組みを考えてもよいと思います。

地域づくり計画には「愛」が込められています。みんな、自分たちの子や孫、その先まで、幸せに過ごしてほしいと計画を作りました。愛は無償。見返りを求めるものではありません。協働で愛を育めば、その先に必ず幸せが待っています。

「愛」込められた地域づくり 育んだ先に待つ幸せな地域

登米市とは、10年ほど「協働のまちづくり」関係の事業でお付き合いしています。

計画を実行する場合、定期的に事業の進捗や効果測定していくことで「計画の機能不全」が未然に防げます。市や地域ではなく、第三者の目で調査することが、実効性の確保やノウハウの蓄積につながると考えています。

登米市の地域への政策的支援は「がんばる地域づくり応援交付金」の交付や「集落支援員」の配置など、県内の他市町村に比べて、非常に手厚いも



特定非営利活動法人
まちづくり政策フォーラム
理事 足立千佳子さん